

令和2年司法試験 合格体験記

令和2年司法試験合格後中途退学（既修コース） 渡邊 裕樹

16期既修の渡邊裕樹と申します。岡山大学法学部を卒業し、そのまま岡山大学法務研究科に進学しました。ここでは、これから受験される皆さんの一助になればと思い、特に受験に必要なことを二点述べさせていただきます。

一つ目は、正確な日本語を使えるようにするという事です。司法試験の山場は論文試験ですが、論文では自分の考えを文章化しなければなりません。いかに自分の考えを頭の中でまとめていたとしても、それが審査委員に伝わらなければ点数には一切反映されないのが司法試験です。

そして、審査委員に自分の考えを伝えるためには正確な日本語で文章を作成するスキルが不可欠です。主語・述語の対応や「てにをは」が間違っているなど、正確な日本語が使えない人は何年たっても合格できないと思いますので、当てはまる方は意識して訂正してください。

二つ目は司法試験本番を普段から意識するという事です。私が意識していたことは、予備試験であれば70分で、司法試験であれば120分で六法以外何も参照せずに答案を書くこと、試験時間中に絶対にトイレに行かないことなどでした。試験本番ですべきでないこと、できないことは普段の学習の中でもやる必要はありませんし、本番でやるべきこと、できることは日々の学習でも積極的に取り入れるべきだと思います。ロースクール生活をぜひ試験本番との関係で考えてみてほしいと思います。

限られた時間の中で優先順位をつけてメリハリのある学習を心がけている人が司法試験に合格しているように感じています。今後受験される皆さんも2年ないし3年という短い時間を有効活用して合格をつかみ取ってください。

最後になりましたが、友人、先輩、家族、法務研究科の先生方および大学院の職員の皆様には様々な場面でお世話になりました。私が今回の司法試験に無事合格できたのも支えてくださった皆様のおかげだと思っております。末筆ながらこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。